

鳥取県庁インターンシップ

(県土整備部河川課・技術企画課)



2023年8月28日（月）～
9月1日（金）実施

県庁インターンシップ（河川課・技術企画課）

全体スケジュール

日にち	内容	対応課
8月28日（月）	県土整備部概要説明	技術企画課 道路企画課、道路建設課、 河川課、治山砂防課、 港湾課、交通政策課
8月29日（火）	「とっとり防災フェスタ2023」の展示パネル 作成	河川課
8月30日（水）	ダム管理の洪水対応意見交換会、 現地視察（河川・海岸事業等）	河川課
8月31日（木）	現地視察（災害復旧等）	技術企画課
9月1日（金）	若手職員との意見交換会 報告会	河川課、技術企画課

受入れ先：河川課、技術企画課

受入学生：鳥取大学 学生3年生

希望する体験内容：県土整備部が行っている防災事業

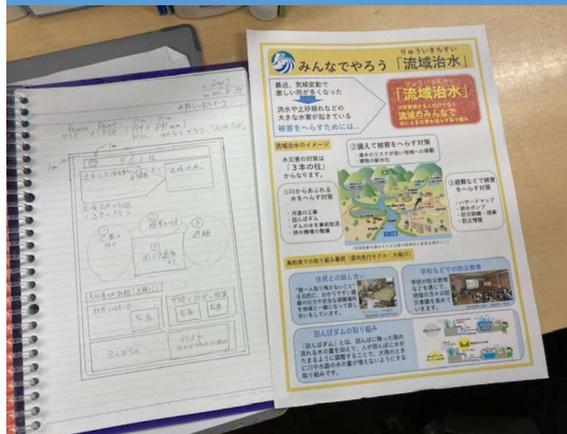
県庁インターンシップ（河川課・技術企画課） 1 / 5

8月28日（月）各課／県土整備部の概要説明



技術企画課、道路企画課、道路建設課、河川課、治山砂防課、港湾課、交通政策課空港振興室
 ○県土整備部では、河川だけでなく道路、港など、幅広い業務を担当していることを知っていただきました。

8月29日（火）河川課／防災フェスタの展示パネル作成



「既存資料を見ながら自分なりの言葉に置き換えて、伝わりやすいように工夫した」と語ってくれました →

← 完成イメージを自分で手書きで作成したうえで、資料を作成
 ※限られた時間での工夫

（本人はもう少しルビを振るなりして、もう少し作り込みたかったようです）



9月10日の「とっとり防災フェスタ2023」にて実際に展示する『流域治水』の紹介パネルを作成
 ○子どもに見てもらえるよう、わかりやすい言葉に置き換える、見やすい配色にする等、工夫していました。

県庁インターンシップ（河川課・技術企画課） 2 / 5

8月30日（水）河川課／ダム管理意見交換会、現地視察

ダム管理の洪水対応等振り返りの意見交換会（WEB）



（意見交換の内容）

- 佐治川ダムの緊急放流について、国や他県との意見交換を傍聴した。
- 他県でも事例がほとんどなく、今回事例について質問があった。

塩見川（鳥取市福部町）、私都川（八頭町） 河川改修



○塩見川

拡幅予定の河川の整備状況等を確認。

（気になったことについては積極的に質問を行っています）

このほか・・・私都川の河川改修を見学
架け替え中のJR因美線私都川橋梁等を確認。

河川改修事業中の2箇所（塩見川、私都川）について、現地視察を実施。

○現地の状況と図面を照らし合わせ、事業の完成形をイメージして頂きました。

県庁インターンシップ（河川課・技術企画課） 3 / 5

8月31日（木）技術企画課／現地視察

佐治川 土木施設災害（鳥取市佐治町古市他→佐治川現地事務所→佐治川ダム）



古市の被災状況を視察



県と市の職員の調整状況を見守る



緊急放流が行われた佐治川ダムを視察

砂防堰堤：六日市中谷川
（鳥取市河原町）



建設技術実証フィールド
（鳥取市浜坂）



新技術体験に思いをはせる

道路改良：
県道網代港岩美停車場線
（岩美町田後）



（研修生の感想）

- 土木施設災害：これまでは傍観者だったが、県職員になって当事者として復旧に当たってみたい。
- 砂防堰堤：規模の大きさに驚いた。優先順位をつけて整備を進めていることがわかった。
- 建設フィールド：新技術を体験することができる施設で、興味を持った。研修があれば参加してみたい。
- 道路改良：橋梁の工事は時間もお金もかかるが、現在の県道が狭いため必要な事業だと感じた。

県庁インターンシップ（河川課・技術企画課） 4 / 5

9月1日（金）河川課・技術企画課／若手職員との意見交換

若手職員との意見交換会（河川課、治山砂防課、技術企画課）

試験勉強の方法、実務でやりたいこと、達成感、苦情対応など、ざっくばらんに体験を語り合いました。

（参加者の意見）

- 試験は問題集や動画を見て勉強した。
- 大変な苦情対応もあったが、最終的には理解が得られた。
- 業者との適切な距離感のコミュニケーションが大切。疎遠でもダメ。
- 地図に残る仕事、県民に見られる仕事なので、達成感はある。
- 河川・道路など分野は異なるが、しっかり連携がとれている。

（研修生の感想・意見）

- 鳥取県は、星空がきれいなので住み続けたい。
- 県土木職は、幅広い分野を経験できるところが魅力的だと感じた。
- 防災フェスタの資料作成は、たった一枚の資料作成だったが、達成感があった。
子ども向けの資料なので、配色や文字の大きさを考えながら工夫した。自分にとっては成果の一つ。
- 県庁はコミュニケーションを大切にしている職場だと感じた。しっかり伝えないと伝わらないことも学んだ。
- 土木には様々な分野があり、横の連携が大切。
- 異動はあるが、勤務地や業務内容などを新しく知ることが出来るとポジティブに捉えれば、ワクワクする。



県庁インターンシップ（河川課・技術企画課） 5 / 5

9月1日（金）河川課・技術企画課／報告会

1週間を通じたインターンシップの報告会（河川課にて）

（研修生の感想）

- 現場見学を通じて、これまでは傍観者であったが、県職員になって当事者として災害復旧や改良事業に携わってみたい。
- 来年の試験に向けてこれからの大学生活や自身の課題を分析し、より一層勉強に取り組んでいく。
- 「土木はやさしさをかたちにする仕事」ということが印象に残った。
- コミュニケーションを重んじた、仕事に熱心な職場だと感じた。
- 様々な分野で携われることに魅力を感じた。
- 貴重な体験をさせて頂き、有意義な時間を過ごせた。
- 鳥取県庁で働きたい気持ちがさらに強くなった。



河川課の皆さんと研修生

研修生

研修生が作成した
防災フェスタパネル



9月10日の「とっとり防災フェスタ2023」にて
『流域治水』の紹介パネルを展示

みんなでやろう「流域治水」

最近、気候変動で激しい雨が多くなった
洪水や土砂崩れなどの大きな水害が起きている
被害をへらすためには...

流域治水のイメージ

水災害の対策は「3本の柱」からなります。

①川からあふれる水をへらす対策

- 河川の工事
- 田んぼダム
- ダムの水を事前放流
- 排水機場の整備

②備えて被害をへらす対策

- 洪水のリスクが低い地域への移動
- 建物の耐水化

③避難などで被害をへらす対策

- ハザードマップ
- 排水ポンプ
- 防災訓練・授業
- 防災情報

鳥取県での取り組み事例（県内先行モデル：大鏡川）

住民との話し合い

「誰一人取り残さないこと」を目的に、わかりやすい避難の仕方や安全な避難場所を地域と一緒に考えて話し合いをしています。

学校などの防災教育

学校の防災教育などを通して、地域の方々の防災意識を高めていきます。

田んぼダムの取り組み

「田んぼダム」とは、田んぼに降った雨の流れる水の量を抑えて、人が田んぼに水がたまるように調整することで、大雨のときに川や水害の水の量が増えないようにする取り組みです。